

糖尿病だより 第81号 11・12月

腎臓の働きを保つために・・・「生活改善」・「食事療法」・「薬物療法」が基本になります。

腎不全治療によく用いられる薬・・・腎不全の程度や、腎不全の原因となっている腎臓病の種類、合併症の有無によって使用される薬の種類は異なります。

腎不全を悪化させる要因と治療によく使われる薬剤

腎不全を悪化させる因子・合併症	使用する薬剤	知っておきたいこと
高血圧 高血圧はタンパク質や塩分の過剰とともに、腎不全を悪化させる最大の原因です。	降圧薬	血圧を下げる降圧薬には様々な種類があり、それぞれの特徴ごとに使い分けられます。血圧が下がったからといって、勝手に中断すると血圧が急に上がり、脳出血等を起こす危険があります。
水分貯留 腎不全のため体内に水分が溜まると、むくみや高血圧などの症状が現れます。	利尿薬	利尿薬には、尿中へのナトリウム、水分の排泄を増やす作用があり、その結果、尿の量が増えます。
高血糖 糖尿病性腎症では、高血糖が全身の血管の病気を悪化させます。	糖尿病治療薬 (インスリン、経口糖尿病薬)	糖尿病の治療・効果が不十分だと、糖尿病性腎症や網膜症が進行します。
高脂血症 血液中のコレステロールの高い状態が続くと、動脈硬化を進行させます。	高脂血症治療薬	血液中のコレステロール値を低く抑えることで、動脈硬化とともに腎不全の悪化を抑えられることがあります。
腸管内毒素 腸管内の毒素は血液中に吸収されて、腎不全を悪化させます。	経口活性炭製剤	腸管内の毒素を吸着する薬ですが、他の薬と一緒に服用すると、その薬の成分も吸着してしまうため、十分な効果を得られなくなります。医師や薬剤師の指示を守りましょう。
貧血 腎不全患者さんに多くみられる合併症です。主な原因は造血ホルモンの不足です。	赤血球造血刺激因子製剤 HIF-PH 阻害薬※ 鉄剤	腎臓で分泌されるエリスロポエチンという赤血球を作るホルモンや鉄分が不足すると貧血になるため、これらに影響を及ぼす薬剤を使用します。鉄剤は必要な場合に補給します。

※低酸素誘導因子プロリン水酸化酵素阻害薬

参考・引用資料：協和キリン株式会社 毎日いきいき透析学習帖 2020年

意外と誤解していることも多い薬の飲み方(時間やタイミング)について・・・

食前 → 食事のおよそ30分前 食直前 → 食事のすぐ前 食直後 → 食事のすぐ後
食後 → 食後30分以内 食間 → 食事と食事の間、食事のおよそ2時間後
就寝前 → 寝る直前、または寝るおよそ30～60分前 頓服 → 必要に応じて服用

★できる限り指示された時間に服用することが大切です。飲み忘れた場合は必ず医師や薬剤師に相談してください(薬によって対処方法が異なります。)また、症状が軽くなったからといって自分の判断で中断しないようにしてください。

新渡戸記念中野総合病院 糖尿病療養チーム